

911.13
セ
1

井蛙抄



道とくも世のうらよ師とくもあつたさくよとて疎
くもあつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎
子れ人の海をたへて来りて
新撰髓腦云々ありてなり

世の中にあつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎
あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎
貴之新撰と云は乃よ世の人の事と云は人の事と云は
貴く平

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

わらわらたかんとて疎くもあつたさくよとて疎

かぬ感寺

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

あつたさくよとて疎くもあつたさくよとて疎

あつた後には... せし安なる

影捕り

あつた後には... 影捕り... 影捕り... 影捕り...

清補源伝

冬枯の森のくは葉は... 清補源伝... 清補源伝...

あつた後には... 影捕り... 影捕り...

先人 後成中

あつた後には... 影捕り... 影捕り... 影捕り...

基後

あつた後には... 影捕り... 影捕り...

其の意一々其の意とありてありて其の意とあり

八雲西抄を兼しは平比ふべきなり。其の意とありてありて其の意とあり
なごもかゝるもの物と世に於ては海にさしてはくもくあり
一々其の意とありてありて其の意とありてありてありてありと
よれは其の意とありてありてありてありてありてありてありと
整なごもかゝるもの物と世に於ては海にさしてはくもくあり
あまもく一々其の意とありてありて其の意とありてありてありと
同法抄に於ては其の意とありてありて其の意とありてありてありと

あつてありてありてありてありてありてありてありてありと
昔よりありてありてありてありてありてありてありてありと
いひてありてありてありてありてありてありてありてありと
よむてありてありてありてありてありてありてありてありと
いよむてありてありてありてありてありてありてありてありと
お地よむてありてありてありてありてありてありてありてありと
まゝなり

又云詮とありてありてありてありてありてありてありてありと
いひてありてありてありてありてありてありてありてありと
いよむてありてありてありてありてありてありてありてありと

京極殿送衣笠被_レま_ハり_テさ_ハり_テ和國の風_ハハ

侍_レ人_ハ先哲_ニま_シて_ハく_ハら_ハる_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

ふて平_ニか_ハな_らむ_物ハ

て思_ハれ_ばハ

は_ハる_物ハ

境_ノな_らむ_物ハ

侍_レ人_ハ先哲_ニま_シて_ハく_ハら_ハる_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

と_ハ質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

質_ニよ_リて_ハ物_ノな_れば_ハよ_クな_らむ_物ハ

中一記大まき一してゆるあきくゆくく群歌あれ
 ありて一〜一〜せ

松とありるとき神よく〜あはれありし事也近日
 乃人風情あつ〜〜〜奥ありてまよ〜おきる
 らあ〜むし〜〜〜也風雲
 草葉の感かんはも〜〜也又世間盛衰〜ん流
 々〜〜也故戸部こくべ〜
 ち〜の貴さ〜採らる事此中風乃〜風情あ
 し〜〜た〜〜もき〜心あり〜と

一〜次遍昭信の由事志とれたゆめのとありん
 だ〜ら〜れ〜〜も〜の〜
 うかんとかさともやあ〜ん是〜心ありす乃
 か〜と〜れま〜あ〜ら〜此海朝也
 とあ〜か〜れ〜也あ〜〜
 〽〜

六百番歌百 餘寒よかん

右持 季子經心

う成さあ〜〜山様〜冬〜〜

年桂歩

右

中宮權大吏

ことしは冬より雪がとれあてまきといふはうへに
 右方より云々乎初又文字は題これあつたれき
 不^ゆ揚^ん計^ん一^んた^んあ^んの^ん云^ん非^ん殊^ん判^ん云^んい^んあ^んと^ん初^ん決^んめ^ん
 優^ゆよ^ん一^んそ^ん刃^んく^んゆ^んめ^んま^ん大^んく^んの^ん進^ん業^ん乃^んあ^んよ^ん
 乃^ん宵^ん姿^ん調^んま^ん志^んま^んつ^んり^んま^んく^んな^んゆ^んり^ん偏^ん曲^ん折^ん微^ん妙^ん
 の^ん因^ん積^ん成^ん不^ん重^んく^ん亦^ん非^ん殊^んの^ん由^んと^ん存^んり^んと^ん衆^ん
 心^ん被^ん真^ん心^ん事^んも^ん也^ん但^んた^んの^んく^ん書^んれ^んを^んく^んの^ん以^んて

との^んあ^ん相^んす^んす^ん一^ん相^んり^んか^んや^んゆ^んり^んと^んか^ん之^ん
 ゆ^んま^んと^ん末^ん白^んも^んう^んく^んを^んゆ^んる^んも^んや^ん勝^ん負^ん不^ん分^ん究^ん
 廣田社并合 迷^ん懷^ん

貴家

右

登蓮

昔よりわかくとむら田の神あつたなりとも林れ心志あつたん
 心^ん中^んは^ん林^ん乃^ん心^ん成^んよ^んせ^んれ^んく^んゆ^んる^ん心^んと^ん相^んり^ん
 心^ん中^んは^ん林^ん乃^ん心^ん成^んよ^んせ^んれ^んく^んゆ^んる^ん心^んと^ん相^んり^ん
 心^ん中^んは^ん林^ん乃^ん心^ん成^んよ^んせ^んれ^んく^んゆ^んる^ん心^んと^ん相^んり^ん

夕べをゆるめれ（たふさぐ）相將（あいに）慈字（あまの）作秋（あき）心（こころ）の心（こころ）が詩志
 心なるふー（こころなる）一（ひと）ちさきあふ（あふ）い（い）はたさ（はたさ）り（り）め文（ぶん）一
 由（よし）を思（おも）はれ（はれ）と（と）河（か）つ（つ）ま（ま）り（り）す（す）あ（あ）ま（ま）え
 く（く）ま（ま）り（り）く（く）そ（そ）を（を）ん（ん）く（く）ゆ（ゆ）ま（ま）く（く）ぬ（ぬ）ら（ら）ぬ（ぬ）海（うみ）たる（たる）河
 先（まづ）河（か）文（ぶん）く（く）備（ひ）實（じつ）と（と）其（その）神（かみ）少（すく）神（かみ）と（と）て（て）も（も）ひ（ひ）ら
 乃（すなは）す（す）こ（こ）の（の）ゆ（ゆ）る（る）一（ひと）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）と（と）林（はやし）の（の）こ（こ）い
 家（いへ）ら（ら）あ（あ）ら（ら）れ（れ）よ（よ）さ（さ）く（く）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）あ（あ）く（く）と（と）く（く）次（つぎ）月（つき）日
 な（な）ら（ら）ぬ（ぬ）ん（ん）と（と）一（ひと）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）神（かみ）一（ひと）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）又（また）作（つく）持（ぢ）
 と（と）す（す）

西行御裳濯河舞台

一（ひと）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）花（はな）乃（すなは）ち（ち）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）花（はな）乃（すなは）ち（ち）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）一（ひと）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）

同舞台

花（はな）乃（すなは）ち（ち）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）一（ひと）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）一（ひと）ち（ち）さ（さ）は（は）ら（ら）ぬ（ぬ）

同舞台

牛哇

昔時一紙の事も世に傳へられたるはなるべし
判云ふはなるべし

同歎合

右
私にてもはたしめたるは
山にてもはたしめたるは
たすむるはたしめたるは
しほしめたるはたしめたるは

私にてもはたしめたるは
山にてもはたしめたるは
たすむるはたしめたるは
しほしめたるはたしめたるは

よて傳へる

順徳院道首

去りてはたしめたるは
よてはたしめたるは
しほしめたるはたしめたるは

五句始新遠風情始
よてはたしめたるは
しほしめたるはたしめたるは

又句世一字とくきう末秀まひう送めおくり擲玉たてたま之のの照耀てうごう対たい擲たての
人ひとののぬぬ若わか木きををははららししよよのの引ひ分ぶんのの水みづのの林りん代だいのの書しよ
はは世せ一いつ字じ又また每まい字じ難なん押おし感かん渡わた作しよままくく玄げん妙めう上じやうのの元げん
中ちゆう務む之之親しん主しゆ之之意い三さん百ひやく首しゆ也

多た羽う山さんししふふ暖ぬるめめししののははらられれ乃のああるるここはは白はくくく春しゆん後ご
毎まい句く毎まい麗れいももかかくくここののああららゆゆりりくくとと擲たてままくく
雲うんここのの細こ夕しゆ風ふうししここののああららゆゆれれのの喜きややももかかよよのの引ひ分ぶんのの書しよ
そそののかかややららはは屋いつすすかかのの引ひ分ぶんのの書しよここののああららゆゆりりくくとと擲たてままくく
ああららゆゆりりくくとと擲たてままくく

當流たうりゆう撰者せんしや初はつ度ど撰せん之之時とき自より派はとと撰せん入いりりまますすここののああららゆゆりりくくとと擲たてままくく
千載集せんざいしゆはは撰せん者しやのの初はつ八はち十一じゆ首しゆ也なり勅しよく之之よよりりてて
世よ又またそそのの加かへへとと世よののああららゆゆりりくくとと擲たてままくく
皇太后宮太史みかどのおうぐいすのし後ご成なり

かかのの花はな乃のああららゆゆりりくくとと擲たてままくく
冬ふゆののああららゆゆりりくくとと擲たてままくく
月つきののああららゆゆりりくくとと擲たてままくく
浦うらははららののああららゆゆりりくくとと擲たてままくく

新古今事類千二百餘撰者每有獻
石能自推仍新初撰千二百

權中納言
新古今事類千二百餘撰者每有獻
石能自推仍新初撰千二百

みらのくはすつ尻乃崎に向かた原としてゆふふもよこし

續拾遺

お大納言なる氏

けろろれが葉ハいさこしそくそくしてあはしよよおた山の隈
くは山びくよのきりゆりおんをとの巻とやいふよて
まはのまゐるまうり山のくははみふをそいつる原
いりりおちあふりかひおのきよまもるおさこりてあは
かちやと吹風のうらこまひと引てまよりすあふ林は川
吹塵のうしや雲おたきては波と月よ吹くは林の境は
おちあはむくへの橋架え付てかり菴さじり又林の山の

お葉よの林乃ちおた形をくはまとのこまぬくつし乃風
はゆるお乃風のくまはほそめてあははまにつり

餘情

忠孝十神よまひ之餘情神

我宿たしあみそくはくろくをらわらん境をきりくふ
今おんとおゆりりりよはき月のまゝお月と約あつた
おひいひひまがりゆりあそのまは風さじりあまをく
き羽川を記今くあははははは人の心はくもくろくか
お田井くく十崎ひけく情あはと今よははまら海土乃物

四系大納言と任す 和す九品

上へ 言葉たるよりしてなまりてうらふあり

ほのくさありこれ浦乃あききい清くればし船とそこ

まことと云くわりや三音の山も表してのいあん

上中 言葉よりうらくあまりのころうああり

お山いあしれあらしおある浦さたわらう交有んわ

お坂乃実の清あよけみして今やひらん月月の物

日吉社歌合奥書云五系 後成 ねほくたう

と云くの理とむむとせられとをな

ゆきといひてまうこのあけつたもとうらな

めつたもい何となく熱いとぬきよとまといひ

乃あるさるへいよはあよあしぬきんそのこ

ん雲れおよ^{けいき}氣乃うらひるやうなるまー乃

あやもやたとんま花のあがりぬ花たがう

よ林井月のまへよ鹿乃群ときうかうの乃梅

ま風よほむさの乃あ葉よまくれのうらうな

すうやうなるあの中おうひくそえか也けひよ

ややうよらぬまといはやあぬまやむいれ

いひむとゆまれさのくはむかひのくはむかひ
るくあてててくさゆるまむかひなるすくはむ
よみよせんともり人むかひらむ世よむかひ
まるるとひらむきとくはむかひのくはむかひ
六百番歌合 のふちひ 妹 暑

右

信うへ

林何うに日けよまはれとくるくゆきいそ秋の上
判云たはあな情く神ゆるくなすくててはあ
千五百番

右

有家朝信

さくはあなとらぬさ秋の毛上乃はくはむかひ
京極黄門判云たはあな情く神ゆるくなすくててはあ
事

Blank aged paper with some staining and faint markings.

Blank aged paper with a rectangular border and a circular stamp.



Vertical handwritten text in Chinese characters, located on the right edge of the right page.

